

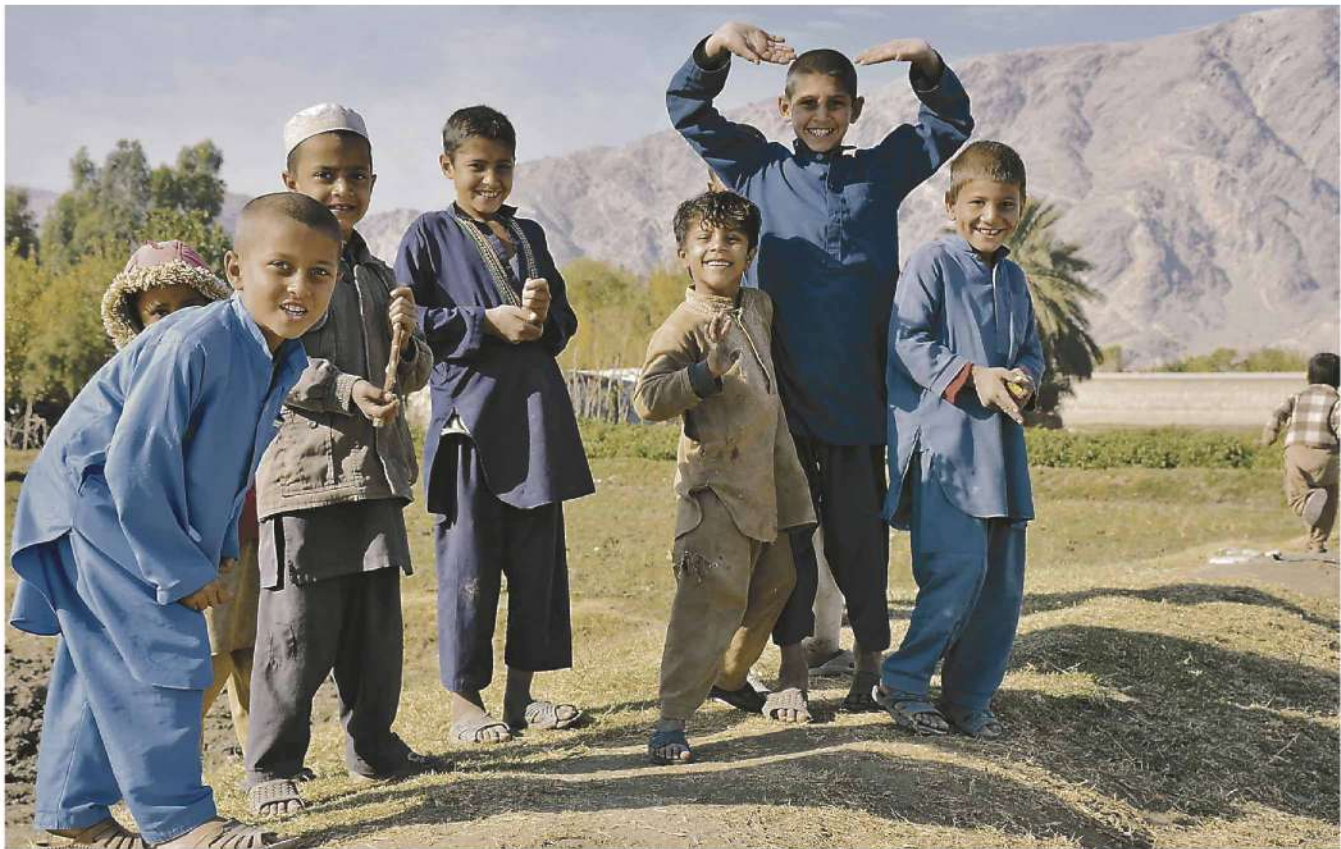
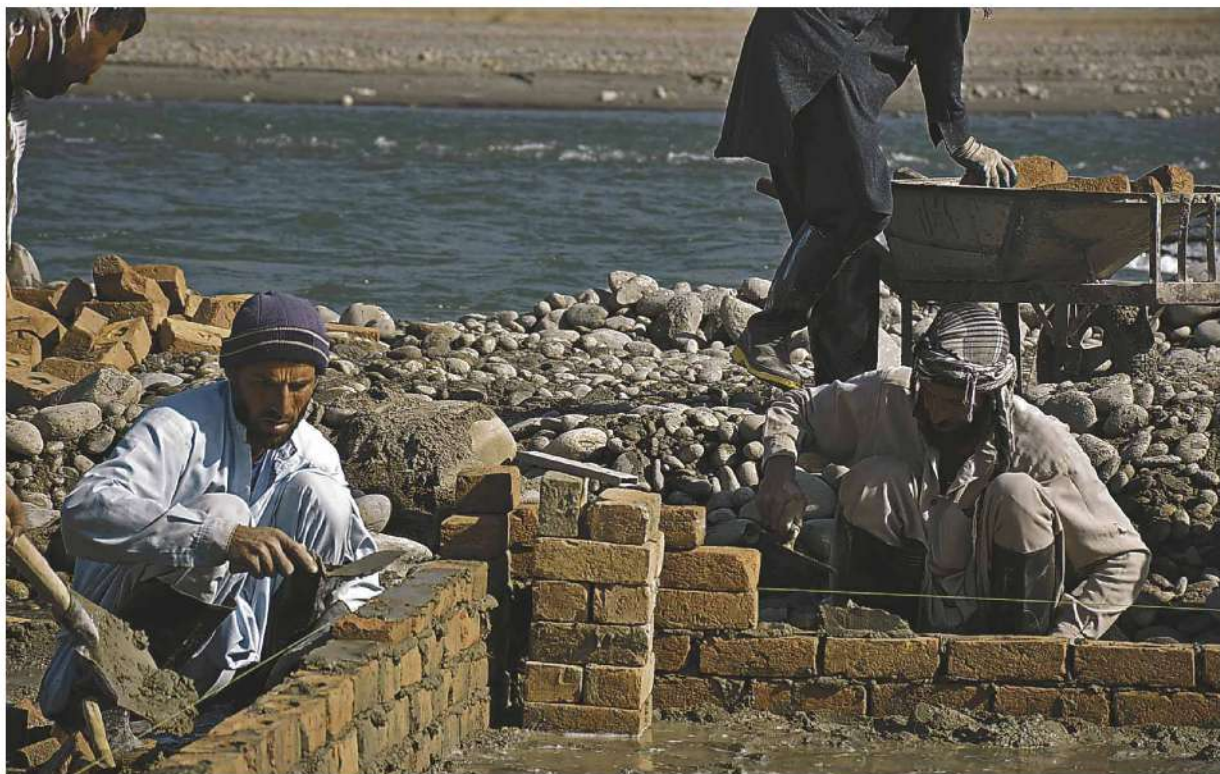
もの知り こどもタイムズ

砂漠を緑にかえたお医者さん 中村哲先生の物語

5

なかむら てつ せん せい ものがたり

クナール川の近くで行われている工事。兵隊だった人たちがよるこんで銃をシャベルに持ちかえて工事に協力しました



大人たちが用水路の工事をする近くで、子どもたちは笑顔で元気に遊んでいました



アフガニスタン東部で武器を持つ兵隊たち。戦いが好きなのではなく、本当は家族とふるさとで平和に暮らしたいと願っています(AP=共同)

中村先生は何を伝えたかったのだろう

アフガニスタンの砂漠を緑にかえたお医者さん、中村哲先生。2014年に現地取材し、先生が生涯をかけて訴えてきた大切な思いに触れました。みなさんにもお伝えしたいと思えます。(中原興平記者)

一緒に過ごすアフガニスタン人にも「やられても、やり返してはいけない」と繰り返していました。その姿勢を続けていくことで、最初は仲が良くなかった人たちからも少しずつ信頼されるようになっていったのです。

ガニスタンのガニ大統領も「中村さんは最も勇敢な男だ」と尊敬していました。戦争ばかりしてきたアフガニスタン人たちは、戦うことが好きなのではないか。決して、そうではないのです。外国も関わる難しい理由があつて戦争が続いています。一人一人は家

族と楽しくくらしたいと願っているのです。日本人と同じように、大人たちは一生懸命に仕事をして、子どもを育てています。子どもたちも遊ぶことが大好き。お手伝いや勉強も熱心にかんがっています。

出会ったアフガニスタン人たちに「望みは何ですか」と聞くと、みんなが同じことを答えました。「平和」です。中村先生は35年もの間、ふるさとの福岡から遠い現地で患者を手当てし、井戸や用水路をほつてきました。戦いをなくしていくためには辛抱強い取り組みが必要です。でも、平和だけが、人々を幸せにすることができるのです。

「平和には戦争以上の力があり、平和には戦争以上の忍耐と努力がある」



特別サイトに子ども向けページ

西日本新聞の「中村哲医師特別サイト」の子ども向けページができました。アフガニスタンの子どもたちの写真などを見ることが出来ます。